



地産地消の経済に！GoToキャンペーンは取り止め

コロナ第二波で誰もが外出自粛中。GoToキャンペーンで政府が旅行を推奨とは呆れます。

この制度では、旅行社で予約した交通費宿

泊費込みの旅行代金の

五割、一泊につき二万

円までを補助。例えば

二泊三日で八万円のプ

ランだと一人一泊二万

計四万円(内三割は宿

泊先近くで使えるクー

ポン)補助。これはお

金があり休みの取れる

人が使え、大手旅行社

にお金が入る仕掛けだ。

収入の少ない家庭等は

使えない。全ての国民

向けにするなら、定額

給付とし、安い民宿等

を個人が利用しても良

いようにすべきだ。

地方の活性化には

コロナで地方の観光業が大変だが、地方が観光に頼る事になったのは何故か？

海外からの輸入で農林漁業は採算が取れない。結果、農業は「実習生」、遠洋漁業は外国人船員。地方に誘致

した中小企業は東南ア

ジア等に移転。国民の

働く場が無くなった。

勢い観光だのみに。

しかし、コロナで観

光客は来ない。一方、

国内経済は輸入部品が

入らず製造中止とか。

マスクや防護服も不足。

これは、過度の自由

化はダメだと云う証拠。

海外からの輸入は燃

料を消費し二酸化炭素

で地球温暖化を促進。

輸入を規制し、地場

産業の底上げを図れば

良い。地産地消を推進

すれば、地方に元々あつ

た産業も回復し、雇用

も回復する。そうすれ

ば地方の景気も良くな

り、国民みんなが旅行

にも行けるようになる。

あなたはこう思われ

ますか？

六ツ川の丘

神奈川県横浜市南区山王台から

二〇二〇年七月



横浜市南区の西部は丘と谷が入り組む。「六ツ川」と云う地名通り多くの小川が谷を刻んでいる。

向かいの丘の上は六

ツ川一丁目。一九六〇

年代に開発された。今

八十代の高度経済成長

期の人が住んだ。右端

の家はその当時の物。

当時はエアコンは無く

広い窓を開け風を通す

のが暑さ対策であった。

左の方は最近建て替

えられた家。エアコン

があるから大きな窓は

不要。窓は縦長で家具

を置く壁面を多くとれ

る。窓を開け放つ訳で

はないので雨が降り込

まないから廂も浅い。

しかし、エネルギー

を使いエアコンを回す

暮らしはどうだろうか？

そう考えると、再び

自然の風を通し適当に

暑さをしのげる家に変

わって行くのではない

だろうか？

